



茨 町 建 第401号

平成20年10月22日

国土交通省道路局長 様

茨城町長 小林 宣夫



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

標記のことについて、別紙のとおり回答いたします。

幹線町道は県道とともに高速道路や国道と一体となって、広域的な生活圏を形成し、地方における交流と連携を促進するなど、地域の生活環境の向上を図るうえで重要な役割を担っております。また、その他の町道も地域住民の日常生活に不可欠な施設であるとともに、経済活動を支える基本的な社会基盤施設です。

その一方で、町道の道路延長は933kmに及んでいますが、改良率16%、舗装率64%とその整備状況は大変遅れており、地域の生活及び産業基盤の強化、良好な生活環境の整備を図るうえで障害となっております。

このように膨大な延長を抱える町道の整備を一律に進めることは財政的にも物理的にも困難であり、また効率的でないため幹線道路網の一環を形成する重要な町道は国の補助事業の主要な対象として重点的に整備を推進していただいております。しかしながら国からの補助金は地方負担分の自己資金がなければ申請できず、また道路整備のための借金も自己資金が無ければ借入ができません。さらに補助事業は、国の道路構造令に基づいて道路整備しなければ補助金交付を受けることが出来ず、国の基準に基づいて道路整備を行った場合と自治体が地域の事情に応じて道路整備を行った場合を比較すると自治体独自の基準で整備を行うことによりコストの削減を図ることができません。このようなことから、現在の補助制度を抜本的に見直し、地方の独自性や工夫を生かすことによって、道路整備コスト全体が低下し、地方は道路整備を柔軟に行うことができるのではないのでしょうか。現行の制度では、地方の道路整備は遅れるばかりです。

また、本町において唯一の公共交通手段は路線バスでありますが、近年、路線バスの便数減少や赤字路線の廃止が進んでおります。このようなことから公共交通手段の少ない本町での移動手段は自動車であり、まさに生活必需品です。自動車なしでの生活が不可能な地方では、自動車の世帯あたりの保有として負担は、都市部を大きく上回り、世帯収入は逆に都市部が地方より高いことから、都市と地方の格差が生じております。さらに、地方は教育、福祉予算が増額傾向にあることから投資的予算は削減され、一方で年々道路施設の老朽化に伴い維持補修費は確保しなければなりません。このことから、地方の負担格差と財政状況を考慮し、地方の実情に応じた道路整備ができる制度を早急に確立していただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

様式②

茨城県東茨城郡茨城町

○ 現状	○ 課題
町道の平成19年度末現況は2091路線、実延長933km、改良率16%、舗装率64%であります。また県道は主要地方道6路線を含む14路線、延長約100kmが縦横に走り、整備状況は改良率51.9%、舗装率100%です。 都市計画道路は、総延長63.3km、改良済延長23.7km、改良率37.4%で、県内の改良率51.9%、水戸勝田都市計画区域内の改良率57.1%に比べ低い状況にあります。 国道については、町内を南北に国道6号線(9.8km)が走り、暫定2車線区間が約7割を占めています。 高速道路につきましては、東西に北関東自動車道が走り、町内には茨城町東、茨城町西の二つのICを有し、全線が開通いたしますと関越道・東北道・常磐道へつながります。さらに東関東自動車道水戸線が平成18年に着手され、町内を縦横に走る2つの高速道路の整備開通により魅力的な広域ネットワークが完成いたします。	・ 国道6号線 本線は、暫定2車線区間が約7割を占め交通渋滞の原因となっていることから町内全線の4車線化が大きな課題です。 ・ 主要地方道内原塩崎線(6号国道～若宮) 延長4.7km 本線は、一部改良されていますが大部分は狭路で歩道も設置されてなく、明光中学校へ通う長岡、石崎、下石崎地区の子供たちの通学路になっているため、地区及びPTAより早急な道路改良の要望が出ています。 ・ 主要地方道内原塩崎線(6号国道～高田十字路) 延長5.4km 本線は、国道50号線、やさしさのまち「桜の郷」へのアクセス道路、さらには明光中学校や大戸小学校の通学路となつていますが、幅員が狭く歩道もなく危険箇所が多く早期整備が求められています。 ・ 主要地方道大洗友部線(6号国道～茨城中央工業団地) 延長2.6km 本線は、国道6号線及び県道石岡城里線と接続し、茨城中央工業団地、北関東自動車道茨城町西IC及び総合流通センターへのアクセス道路として大変重要な路線です。しかし、一部しか改良されてなく大部分は狭路で屈曲し、町の産業の活性化を図る上でも早期整備を求めています。 ・ 主要地方道水戸神栖線(海老沢地区) 延長1.2km 本線中住宅連担区域は幅員が狭くセンターラインもなく、さらには車道幅員内に電柱が立っていて、非常に危険な区間です。また、沼前小学校の通学路となつていて歩道がないために、子供たちは日々危険にさらされています。 ・ 主要地方道茨城岩間線(奥谷～川根小学校) 延長2.4km

本線は、桜丘中学校、川根小学校への通学路ですが、狹隘で屈曲しほぼ全線に亘り歩道が設置されていません。現在、小学校の子供たちは路線バスを利用し通学していますが、路線廃止が伝えられているため、徒歩または自転車通学を余儀なくされ、早期整備が求められています。

- ・ 県道長岡大洗線（長岡坂下交差点、中石崎～広浦） 延長2. 3 k m
本線は、観光名所涸沼へのアクセス道路、さらに夏季は海水浴客の大洗海岸への重要なアクセス道路ですが、狹隘で屈曲するなど危険箇所が多く、早急なる整備を求めています。また、本線の起点であります長岡坂下付近は特に事故多発箇所です。
- ・ 県道宮ヶ崎小幡線（小幡～県道水戸神栖線交差点）延長5. 8 k m
本線は、国道6号線から茨城空港、太平洋岸へのアクセス道路、さらには上野合小学校の通学路ですが、狹隘で危険箇所が多く子供たちや地域住民が危険にさらされています。
- ・ 町道101号線（下石崎農免道路～県道長岡大洗線）延長1. 0 k m
本線は、水戸市内及び北関東自動車道水戸南ICから涸沼への重要なアクセス道路、さらに広浦地区から水戸市内への通勤通学道路ですが、上記区間が狹隘で屈曲し、危険にさらされています。
- ・ 町道209号線（小鶴～大戸）延長2. 0 k m
2級町道の本線は、狹隘で危険箇所が多く歩道も未設置です。近年、笠間市内からの碎石等建設資材の運搬車両が増加し、特に未改良の住宅連担区域が非常に危険なため、地元より早急なるバイパス建設の要望が出ています。
- ・ 主要地方道水戸神栖線（前田地内）延長0. 4 k m
本線は、本町と水戸市をつなぐ重要な幹線道路ですが、大雨の度に冠水し、通行に支障を来しています。

安全に配慮した幹線・生活道路の整備と交通手段の確保

1. 住民参加による道路網計画の策定の確立

自動車の保有台数が年々増加している一方で、町内の道路は狭隘箇所が多く、交通安全や経済活動の観点から住民参加による幹線・生活道路網の計画策定の確立を目指します。

2. 生活道路や幹線道路の維持・補修の充実

ストックの老朽化により、道路事業への理解と協力を促し、新設改良から身近な生活道路や通学路の安全を確保するため維持補修にシフトします。

3. 交通弱者対策の強化

路線バスの便数の減少や路線の廃止が進んでいることから、児童・生徒や高齢者等の交通弱者等の交通弱者の利便性、安全性を確保するため新たな移動手段等を検討いたします。